流れ星のおくりもの

作・池田大作　絵・中村景児

流れ星のおくりもの

作・池田大作　絵・中村景児

学研の新しい創作
流れ星のおくりもの

2005年７月17日　第１刷発行
2011年８月４日　第９刷発行

著　者／池田大作（いけだ　だいさく）
画　家／中村景児（なかむら　けいじ）

発行人／真当哲博
編集人／松原史典
発行所／株式会社　学研教育出版
〒141-8413 東京都品川区西五反田2-11-8
発売元／株式会社　学研マーケティング
〒141-8415 東京都品川区西五反田2-11-8
印刷所／図書印刷株式会社

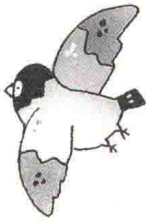
☆この本に関する各種お問い合わせ先
［電話の場合］
編集内容については　TEL 03-6431-1610（編集部直通）
在庫、不良品（乱丁、落丁等）については　TEL 03-6431-1197（販売部直通）
［文書の場合］
〒141-8418　東京都品川区西五反田2-11-8
学研お客様センター『流れ星のおくりもの』係
この本以外の学研商品に関するお問い合わせは下記まで。
TEL 03-6431-1002（学研お客様センター）

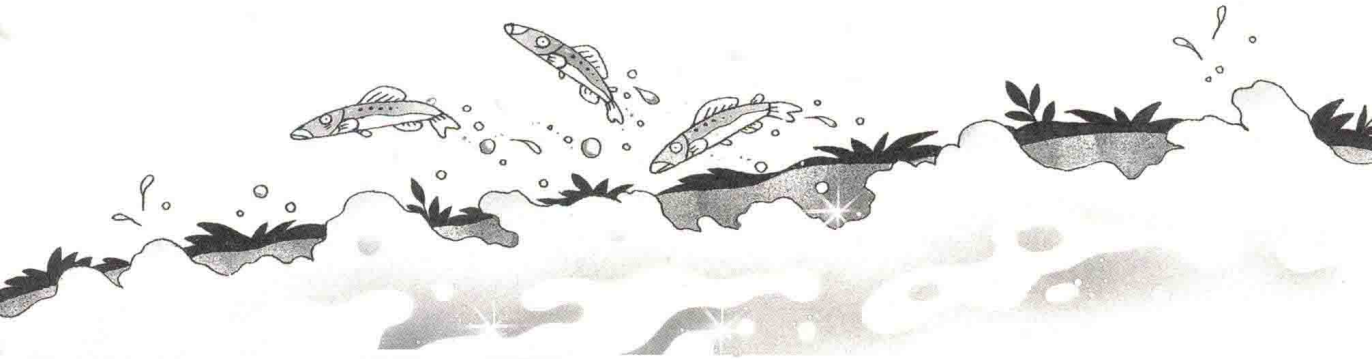
ISBN4-05-202394-3　NDC 913　63P　23cm　Printed in Japan

©D.Ikeda & K.Nakamura　2005
本書の無断転載、複製、複写（コピー）、翻訳を禁じます。
本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用であっても、著作権法上、認められておりません。
複写（コピー）をご希望の場合は、下記までご連絡ください。
日本複写権センター http://www.jrrc.or.jp　E-mail：info@jrrc.or.jp
TEL03-3401-2382
Ⓡ<日本複写権センター委託出版物>

もくじ

宇宙のいちばんのひみつ……4
さあ、だいぼうけんだ！……11
ひみつをさがして……18
大きな大きな森の主……25
空の雲になる……32
小さな水のつぶの旅……40
月から見る美しい地球……48
ほんとうのおくりもの……56





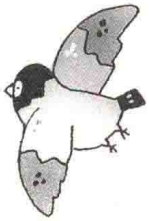
流れ星のおくりもの

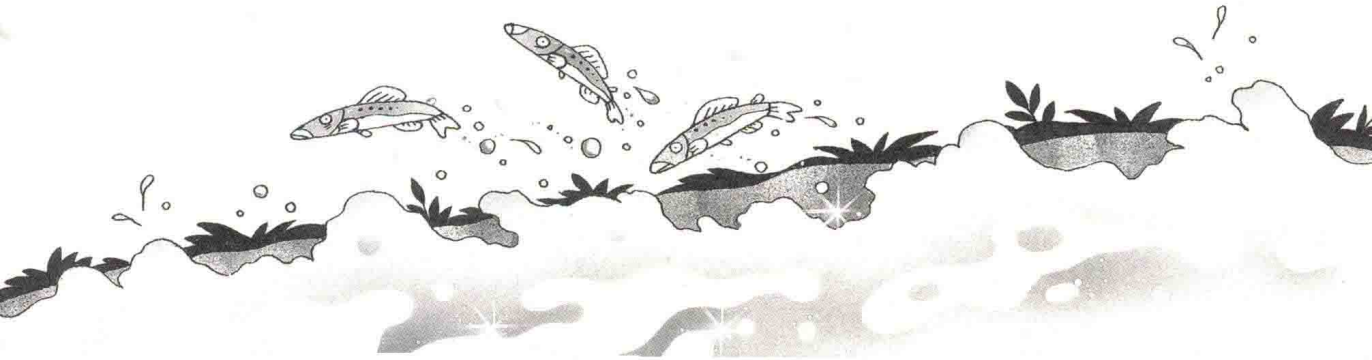
作・池田大作　絵・中村景児

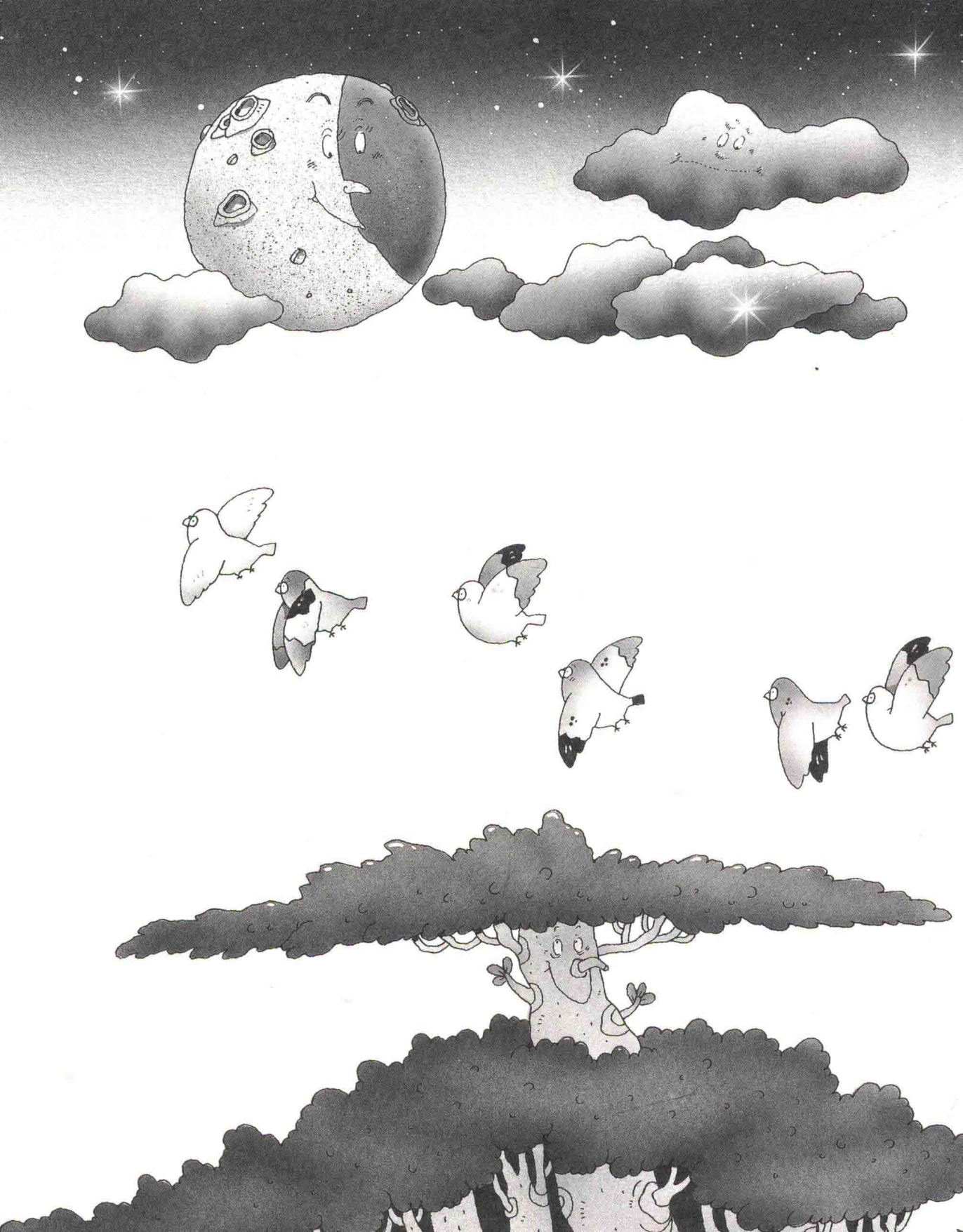
此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

もくじ

宇宙のいちばんのひみつ……4
さあ、だいぼうけんだ！……11
ひみつをさがして……18
大きな大きな森の主……25
空の雲になる……32
小さな水のつぶの旅……40
月から見る美しい地球……48
ほんとうのおくりもの……56







宇宙のいちばんのひみつ

「わあ、きょうも星がいっぱいでてる！」

ひろしくんは、夜空の星が大好きです。

お父さんからもらった小さなぼうえんきょうで、星をながめるのが楽しみでした。

お父さんはときどき、星を見ながら宇宙のはなしをしてくれます。

「たくさんの星だね。ほら、あそこに、ほのかに白く光って、川のように見えるところがあるだろう。あれが『天の川』だよ。たくさんの星の光があつまっているから、川みたいに見えるんだ。この星のあつまりを『銀河』っていうんだよ。」

「ひとつひとつの星の間は、遠く、はなれている。そのなかでも太陽は近いほうだろう。それでも太陽の光が地球にとどくのに八分もかかるんだ。」

「地球から、いちばん近いアンドロメダという銀河を知ってるかい。近いといっても、地球から、ざっと二三〇万光年もはなれている。いま、地球にとどくアンドロメダの光は、二三〇万年前に光ったものってことさ。二三〇万年前の地球には、人間

さえ、いたかどうかも、わからないのにね。」

二三〇万年前の光を、いまぼくらが見ているなんて！

いったい宇宙って、どのくらい広いんだろう。どんな世界が広がっているんだろう――。

夜空を見るたびに、ひろしくんは、ふしぎに思いました。

ひろしくんは、流れ星を見つけると、きまって、こう、ねがいごとをしました。

「おーい流れ星、宇宙のいちばんのひみつを教えてくれないか。」

ずっと宇宙を旅してきた流れ星なら、ひろしくんの知らないことを、たくさん知っているような気がしたからです。

ある夜のことです。いつものように、ぼうえんきょうで夜空をながめていると、ひとすじの光が走りました。

「あっ、流れ星！」

はやく、ねがいごとをしなきゃ。ひろしくんは、あせりました。

でも、流れ星はすぐには消えませんでした。ゆったりと空を走りながら、きらきらした光のすじをつくっています。

森の向こうへ落ちると思ったそのときでした。流れ星は、ぎゅんとまがって、こちらに向かってきたのです。

光はどんどん、どんどん大きくなってきます。ひろしくんは、あわてて、とびのきました。

「うわあ！」

大きな光の玉が、ぼうえんきょうにぶつかったのです。

しばらくして、ひろしくんは、目をこすりながら、立ちあがりました。

おそるおそる、ぼうえんきょうをよく見てみました。いつものぼうえ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

んきょうです。そっとのぞいてみました。どうやら、こわれてはいないようです。

そのとき、どこからともなく声がきこえてきました。

「さあ、これで、できあがりだ！」

ひろしくんはびっくりして、あたりを見まわしました。だれもいません。

「上だよ。上を見てごらん！」

急いで顔をあげると、ひときわ大きな星が、ひろしくんに合図をおくるように、きらきらとまたたいています。

「さあ、きみのねがいをかなえよう。」

星の声は言いました。

「ぼくのねがい？」

ひろしくんはつぶやきました。

「そうさ、わすれたのかい。宇宙のいちばんのひみつを知りたいんだろう。」
星は言いました。
「うん！」
ひろしくんは大きな声でこたえました。

「おしえて！」
「そのつもりさ。でも、ぼくがおしえるわけにはいかない。宇宙のいちばんのひみつだからね。答えは、きみが自分でさがすんだ。」
「ぼくが？　自分で？」
「そうだよ。そのかわりヒントをあげる。それが、そのぼうえんきょうだ。」
「わかった！　これで空を見れば、わかるんでしょう？」
ひろしくんは、とくいげに言いました。
「そうかんたんには、いかないさ。だいいち、そのぼうえんきょうは、ちょっと小さすぎる。」
そして星は言いました。
「だから、ぼくが、きみのぼうえんきょうにまほうをかけた。」
「まほう？」

さあ、だいぼうけんだ！

星は、すこし、とくいげに、こたえました。

「星の光でレンズをみがいたのさ。きみも見ただろう。とっておきのとくべつせいだ。このぼうえんきょうで見えるものなら、きみは、なんにでも、なりたいものになれる。」

「なんにでも？」

「そう、なんにでもだ。なりたいものをぼうえんきょうでのぞいて、こう言うんだ。きみのこころを見せておくれ、とね。」

「きみの、こころを、見せておくれ。」

ひろしくんはくりかえしました。

「そうだ、うまいぞ。そうすれば、きみのなりたいものに変身するってわけだ。」
「もとにもどるときは、どうするの？」
「いい、しつもんだ。ぼうえんきょうを、さかさまからのぞいて『きみのこころを見たよ』と言えばいい。そうすればもとにもどる。がんばってね！」
そう言うと、星のまたたきは消えました。大きな星は、夜空でしずかに光っていました。

翌朝、ひろしくんはいつもより早く起きました。
大急ぎで顔をあらい、大急ぎで朝ごはんを食べ、家を飛びだしました。
「いってきます！」
早く学校にいって、同じクラスで、なかよしのあきらくんに話したかったのです。まほうのぼうえんきょうは、かばんの中で、カタカタと音を立てていました。

下校時間。ひろしくんは、あきらくんに小さな声で言いました。
「とっても大事な話があるんだ。公園へいこう。」
ひろしくんは、左手にかばんをもち、右手であきらくんをひっぱるようにして走りました。
公園にはだれもいませんでした。ぽかぽかとした日ざしが、ふり注いでいます。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com